

1 学校教育目標

生命尊重と人間尊重の精神を基調とし、自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会に活躍できる「徳・知・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。
 ・活発で礼儀正しい生徒 ・自ら学び、粘り強く努力する生徒 ・心身ともに健康で、心豊かな生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい中にも温かさを感じさせる学校 ・一人ひとりの生徒の良さを伸ばす学校 ・地域・保護者・生徒に信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に学び、難しいことにも挑戦する生徒 ・礼儀正しく、自らの考えを表現できる生徒 ・自らを律し、夢に向かい自立していく生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を愛し、深く理解し、惜しみない指導と支援を行う教師 ・授業力向上に取組み、指導と評価の工夫・改善をめざす教師 ・組織の一員として建設的な提案をし、積極的に実践する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉創立当時の伝統が引き継がれ、保護者・地域が学校支援に力を注いでくれる。PTA本部役員をはじめ多くの保護者は学校に対して協力的である。「開かれた学校づくり協議会」の委員を中心として、地域の学校への思いは強く貢献的である。生徒は全体的に明るく、人情味がある。多くの生徒は基本的な生活習慣が身に付いており、集団行動の質が高まっている。生徒会を中心に校風・良き伝統づくりのために努力している。教員は主幹教諭・指導教諭を中心に教育活動が機動的に行われている。一方、課題としては学校の特色化と魅力ある学校づくりが必要である。昨年度はコロナ禍のために、様々な取り組みが中止や延期となった。さらに学校改築に伴い、教育環境を維持し、生徒がいろいろな活動に積極的に取り組める環境整備が求められている。また、一部の生徒で規範意識が低い生徒が見られる。今後、様々な場面を通して規範意識を高めるとともに、自ら進んで学習に取り組む姿勢を育てる必要がある。特別な支援が必要な生徒に対しては、「青葉ルーム」を活用し、関係諸機関と連絡をとりながら支援していく。

〈前年度の成果と課題〉魅力ある学校の創造に、学校・PTA・地域が一体となり努力を重ねた結果、学校の教育活動を肯定的に評価する生徒・保護者が多い。今後も一層の教師の指導力・授業力の向上を図り、規範意識や思いやりの心を育み、安全で健康な生活への意識向上を図ることが必要である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	基本的な生活習慣の定着と心の教育の充実を図る	○	○	○		
3	魅力ある学校づくりと教育環境の維持を図る	○	○	○		

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学びの基礎・基本を定着させ学力向上を図る。		年度末到達度テスト 正答率65%							
		3年度区学力調査 目標通過率65%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	数学チームティーチング	全学年 数学科	通年 全授業	【指導体制】授業2名体制 【取組内容、ねらい・目的】授業内容の理解が不十分な生徒に、適切な個別指導	数学授業 アンケート	授業に意欲的に取り組めた生徒の割合を80%			
2 継続	放課後補習教室 (AST)	全学年 英・数 正答率低い生徒	AST 補充日 放課後 20分	【指導体制】学年教員 【取組内容】演習を中心に個別もしくは少人数指導。 【使用教材】自作教材	定期考査 (後期期末)	正答率40%を通過する割合が8割以上			
3 継続	サマースクール	全学年 国社数 理英 全員	7月 下旬	【指導体制】学年教員 【取組内容、ねらい・目的】演習をクラスごとに実施。 【使用教材】自作教材	定期考査 (前期期末)	基礎・基本を定着させ、50点に満たない生徒を30%未満。			
4 継続	学習コンクール	全学年 国社数 理英 全員	年1回 ～3回 朝学習 の時間	【取組内容、ねらい・目的】基礎学力に関するテストを行う。基準未満の生徒には放課後学習を実施する。	各教科 学習テスト	達成基準は各教科により異なる。			
5 継続	家庭学習の定着	全学年 全員	年4回 7月、 9月、 11月、 2月	【取組内容、ねらい・目的】テスト勉強を機に自学自習の習慣化を図る。2週間前を家庭学習定着期間と家庭学習記録表等で確認	家庭学習実施 状況調査	テスト前の調査期間に1日平均2時間学習できた生徒を70%にする			

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学力向上を図るために、教員の指導力を高める。	・各教科で主体的で対話的な深い学びができています。授業評価で「授業が分かりやすい」「授業に意欲的に取り組んだ」と肯定的に答える生徒が8割以上	・各授業で下記の項目に沿った授業展開を行う。 ① ねらいの明確化 ② 主体的な活動 ③ 授業の振り返り ・OJTを推進し互いに授業研修を行い、指導力を高める。			

重点的な取組事項－2		基本的な生活習慣の定着と心の教育の充実を図る			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
生活指導が全ての教育活動の根幹であるとの考えのもと、基本的な生活習慣の定着、規範意識の向上、いじめを許さない心の教育を充実させる。	生徒および保護者アンケート調査で「学校に行くのが楽しい」と肯定的に答えた割合が8割以上				
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣を確立し、規範意識を向上させる。	・常にきちんとした服装・頭髪を心がけさせ、「基本的な生活習慣が向上した」と答える生徒80%以上 ・ほとんどの生徒が、学校や社会のルールを理解し、守ろうとする。	・月1回の身だしなみ点検や朝のあいさつ運動を実施する。生徒指導では教職員が共通理解のもと共通実践する。 ・「素直な心」「我慢する気持ち」「規律ある生活態度」を生活目標に掲げ、全教員あがって規範意識の向上に努める。			
悩みを抱えている生徒に適切な対応を行う。	・いじめが発生したときに早期の対応を行う。 ・特別支援教室に通っている生徒の授業満足度が70%以上。 ・年度末、登校できない生徒を10名未満。	・いじめ調査やQ-U調査を実施し、いじめ防止に努める。 ・特別支援教室の充実を図り、通級生徒のコミュニケーション能力を高める。 ・SC会議を週1回開き、スモールステップで対応する。			
心の教育を推進する。	・道徳の授業をさらに改善・充実を図り、思いやりのある生徒を育てる。	・評価ではポートフォリオを活用する。道徳授業の研究授業を実施する。			

重点的な取組事項－3		魅力ある学校づくりと教育環境の維持を図る			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校の特徴を鮮明にして、魅力ある学校を築く。仮設校舎であるが、できる限り教育環境の維持を図る。		本校の取組を、保護者および「開かれた学校づくり協議会」へのアンケート調査で肯定的回答が7割以上。			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ゲストティーチャーによる講演会を行い、広い視野で自ら生き方を考えさせる。	・学年毎に、成長段階に応じた学びに関する講演会を年2回実施する。	・前期はキャリア教育として経済同友会や留学生による講演会を、後期は個性の伸長や自己をみつめることをテーマとした講演会を開催。			
読書教育の推進	・年間読書10冊以上の生徒を50%以上	・年間を通して朝10分の読書を継続させ、読書教育の啓発活動を行う。 ・ビブリオバトルやポップ作りを特活の中に取り入れる。			
生活リズムの向上と食育の推進を図る。	・年度末の調査で朝食取得率が95%以上 ・「ベジファーストを意識して食事をしている」と答えた生徒70%以上	・「早寝、早起き、朝ごはん」の調査を年2回行う。 ・日頃から啓発活動を行う。特活で自らの食について考えさせる機会をもたせる。			
感染症予防が強く求められる中でも、魅力ある教育活動を行い、発信する。	・スポーツやカルチャーイベントを年間5回以上開催する。 ・学校の様子を保護者や地域に毎日発信する。	・「開かれた学校づくり協議会」と連携し、イベントやボランティア活動を推進する。 ・ホームページを毎日更新し、生徒の様子や様々な情報を保護者や地域に提供する。			
仮設校舎であるが、できる限り教育環境の維持を図る。	・登下校時の交通トラブルをゼロにする。 ・学校行事や部活動では生徒が満足できる環境を整える。	・通学路の安全を図るとともに、安全指導を充実させる。 ・近隣小学校や大学、区施設の協力を得て、活動場所を確保する。			